

〔東京都中〕

近年、生徒一人一人の自己肯定感は下がりつつある。児童・生徒に他者への共感や思いやりを育てることは、生徒の自己肯定感を向上させ、生徒が予測不可能で複雑で困難な時代を他者と協働してたくましく生き抜く大きな力となる。そのための基盤となるものは、互いを認め合う学級づくりである。私は、中学校の英語科の教師として以下の取り組みを行う。

まず私は風通しの良い学級づくりを行う。生徒が他者への共感や思いやりの心を身につけるためには、生徒が他者を尊重しあうことが不可欠である。私は、英語の授業の中で話し合いの時間を積極的に設ける。そこで、私は、生徒の他者理解を促すために、読解問題に取り組ませる。登場人物の心情を読み取る問題で、生徒が発表した考えや意見の意図を他の生徒に聞いたり、発音を間違えてしまった場合には、積極的に励ましたりする。こうした活動により、生徒は相手意識や他者に寄り添った考えを持ち、互いを認め合う学級づくりに寄与する一員となることができる。

次に、私は「Thank youカード」を作成する。まず、生徒はホームルームの時間や、学校行事が終わった後に、クラスメイトの良いところや感謝したいことを「Thank youカード」に書く。そして、生徒はそれぞれが書いたカードをお互いに「ありがとう」と言って渡しあう。カードにクラスメイトの良かったところや感謝したいことを理由も含めて具体的に書くことによって、カードをもらった生徒はうれしい気持ちになり、相手のことをより一層大切にしようとする。この活動により、生徒は自己肯定感を高め、生徒の他者への共感や思いやりを育むことができる。このような経験を重ねることにより、生徒は自己肯定感を高め、互いに認め合い協働しあいながらよりよい学級をつくることができる。

互いに認め合う学級づくりを行うことは、生徒が誰一人として取り残されることなく、他者への共感や思いやりを育み、他者と良好な関係を構築するために必要不可欠である。また、このことは生徒が自己実現を目指し、よりよい社会のづくり手になるための大きな力となる。私は、このことを強く自覚し、全教育活動の中で、不断の努力を行い、自己の研鑽に励む所存である。

〔東京都小〕

現在の学校現場では、いじめの認知件数や不登校児童の増加が深刻な状態となっている。そうした中で、未来を生きる児童には、豊かな心を育み、他者と協働しながら粘り強く自分の考えを更新し、より良い社会をつくることが求められる。そのため、学校教育では、児童が他者と関わる中で、他者の考えを尊重したり、相手の気持ちを考えたりする教育活動を通して、児童に他者への共感と思いやりを育むことが重要である。これらを踏まえ、私は小学校教員として、以下の取組を推進する。

1. 考え議論する道徳の授業の推進

道徳の授業では、児童がお互いの考えを聞き合うことで、多様な考えに触れ、相手の考えを尊重し、認め合える心を育む。例えば、教材文を読んだ後、自分が登場人物だったらどう行動するか、どんな気持ちになるかをまずは自分で考える。その後、友達とお互いの考えをグループで聞き合ったり、学級全体で話し合ったりすることで多様な考えに触れる。その際、私は人によって考えは様々であり、児童それぞれの意見は異なっていて良いことを助言する。そうすることで、児童は自分とは異なる考えを持つ

児童の考えを認め、様々な考えを取り入れて考えを深めていくことができる。このように、道徳科を通して児童が多様な考えに触れることで、他者を尊重し、認め合い、共感する心を育てることができる。

2.体験活動による思いやりの育成

体験活動では、児童が他者と接する中で相手の気持ちを考えることを通して、思いやりの心を育むことができる。私は、小学生の時視覚障害のある方の話を聞く機会を通して、障害のある方の気持ちを考えることができた。そこで私は、児童が他者と実際に関わる機会を取り入れる。例えば、車いす体験を行う。車いすに乗っている方のお話を聞くことで気持ちを理解することができたり、自分が実際に車いすを体験することで、どんな支援や声かけをしてもらえたら嬉しいのかを実感できたりする。よって、児童は普段の生活で車いすに乗っている方を見かけた際に、相手の気持ちを考えて行動するようになる。このように、他者の気持ちや願いを考える活動を通して、児童の思いやりの心を育てる。(330字 10行)

児童に他者への共感と思いやりの心を育む教育は、他者との良好な人間関係を築き共生していくために必要不可欠である。私は、児童の豊かな心を育成するために、日々の研鑽に励み、学び続け精進する所存である。

〔埼玉県小〕

グローバル化の進展や技術革新など社会は急速に変化している。「確かな学力」とは、主体的に課題解決し未来を拓くために必要な資質・能力で、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」であると捉える。また「自立する力」とは、自らの意見を持ち、他者と協働しながら主体的に社会参画する力である。私は実現のための取り組みを以下2点述べる。

1 「確かな学力」を育成する問題解決学習

興味のある課題を解決する過程を通して、「確かな学力」を育むことができる。実習先の学級では、普段発表が苦手な子供が興味をもったことに意欲的に取り組んでいた。そこで私は、個々の興味関心に合わせた学習を行う。例えば社会の水道の学習では、水を安心して飲めない国があることを映像で伝え、各自が疑問に思ったことを調べるようにする。その際考えることが苦手な子供にはヒントカードを与える。その後調べたことをまとめ、他のことを調べた友達と共有し深める。このように課題解決する過程を通して知識を活用する力や考える力を育む。そして、学習に対して主体的に取り組む力を育んでいく。

2 意見表明の力を育むディスカッション

自分の考えをもち表現する機会を通して主体性を育むことができる。実習の際には、自分に身近であるクラスの課題を考えることに対して子供たちが主体的に取り組む様子が見られた。そこで私は、意見をもち伝える機会をつくるため、ディスカッションを行う。例えばクラスの課題に合った係活動をディスカッションで決める。その際、クラスの課題について一人一つ以上考えを示すようにする。そして互いの考えについてディスカッションを通して意見交換をし、検討する。このように、課題解決の過程において自分の考えを明確にもたせることで自己の考えを確立させ、社会に貢献する力を育んでいく。

さらに「確かな学力」と「自立する力」を育成するため、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、誰一人取り残さない教育を行っていく。そして他の教師や研究会からも情報を収集することでさらに自己の指導力を高め、研鑽努力する所存である。

〔さいたま市高〕

予測困難な現代を生きる生徒たちは、自ら主体となって他者と協働しながら、よりよい未来を創造していく必要がある。そのためには、地域や社会で学びを活用して、自分の力で生活を変革しようとする「エージェンシー」を身に付けることが重要だ。私は、生徒の未来を切り拓く力を育むため、以下の 2 つのことに取り組む。

1. 自らの力で仲間と共に学びを深める授業の実践

持続可能な地域・社会の発展のために将来行動することのできる人材の育成を目指す。そのためにも、個別最適・協働的な学びを通して、自分の考えを深めたり新たな価値を創造したりできる授業を行うことが必要である。そこで私は以下を実践する。①自ら課題を設定し、解決策や答えを発見する探究活動を行う。②ICT等を活用し、クラウド上で意見交換や情報共有をしながら、個々の学びを深めていく。③活動前の見通し・計画、活動後の振り返り・評価を重視し、生徒の「学びを調整する力」を育成する。

2. 他者と協働しながら、主体性や社会性を育む体験活動

多様な他者との対話を通し、地域・社会の持続的な発展に貢献する姿勢を育むことを目指す。そのためにも、学校や地域・社会の中で他者と共に協働し、現状を変えるために行動する体験活動を充実させる必要がある。そこで私は以下を実践する。①生徒会を中心として、学校の決まりを見直す「校則改革プロジェクト」を実施する。②企業と学校とが連携し、生徒たちが地域に根差した企画やビジネスを考える職業体験活動を、キャリア教育の一環として行う。③地域住民と対話を重ねながら、問題や課題を発見し解決する「地域活性化プログラム」を行う。

私はさいたま市の教師として、「日本一幸せな子ども」を育成するため、自らも教師エージェンシーを身に付けながら、使命感と情熱を持って教育活動に尽力する覚悟である。

〔神奈川県高〕 2024年度

神奈川県では、個性や文化の違い、障がいの有無にかかわらず、多様な教育的ニーズに応え、生徒一人ひとりを大切に育む教育を推進しています。

このような教育を推進するために、あなたはどのような姿勢や意識をもつことが大切だと考えますか。また、そのことを踏まえ、どのような教育活動に取り組みますか。あなたの考えを 600 字以上 825 字以下で具体的に述べなさい。

①教科担任として、協働的な学びを取り入れる

グループ活動等を行う。その際、一人一人に司会や書記などの役割を持たせ、自分はこの活動に必要であるという自己有用感を育む。また、学習が進んでいる生徒に対し、遅れている生徒に補助するよう声掛けを行い、生徒同士で教え合っているような授業づくりを行う。

②学級担任として、お互いを認め合っているような学級づくりを行う。例えば、失敗や間違いを笑わない雰囲気づくり。自分の失敗談を話して、失敗をしたからこそ学んだことがあるということを伝え、失敗や間違いは恥ずかしいことではないと啓発する。また、何度始め等で、お互いを認め合っていくた

めにはどうすれば良いのかということを生徒自身が考える時間を作る。そこで出た考えを学級の方針として、目に見える形で掲示し、常に意識できるようにする。

協働的な学びやお互いを認め合っていく学級づくりを通して、生徒自身が一人ひとりを大切にしていけるよう努める。それぞれと向き合い、必要としていることを把握して誰 1 人取り残さないように努める。

〔横浜市小〕 2 0 2 4

「いじめのメカニズム」を踏まえたうえで、いじめが生まれない学級づくりの方法を、学年の発達段階を考慮して論じなさい。（800 字以内）

近年、いじめの認知件数の増加が深刻化している。いじめの原因として、自尊感情の低さや所属意識への不安が挙げられ、自己防衛のためにいじめを起こしてしまうと考える。そこで私は、自己肯定感を高め、誰もが安心して過ごせる学級を作るための具体的な方策を 2 点あげる。

1. 互いの良さを認め合う

自我が芽生え、他者との違いを気にし始める中学年では、互いの良さを認め合うことで、他者を受け入れる心を育む。実習先では 4 年生国語科のスピーチ発表で互いに褒め合う活動をしていた。私は互いに共感する活動を行う。例えば、道徳の読み物教材で自分が登場人物だったらどんな行動をするのか考えて、グループで共有する。ワークシートを用いて友達の考えの良い点や自分の考えとの違いを明確にし、共感することでそれぞれの考えを尊重できる。他者の意見に傾聴し、それぞれの良さに気付くことで、互いの良さを認め合う姿勢を促す。

2. 個性を活かす学級活動

自分の役割を意識し、責任をもって行動できる高学年では、自分の個性が学級に活かされることで自己有用感を育む。私が小学 6 年生の時、代表委員会を務めて友達から頼られたことが自信につながった。私は係活動で個性を発揮できるようにする。例えば、係活動を決める際、自分の好きなことや得意なことを書き出す。それを基にペアでいいところや向いている係を提案し合い、係を選んでいく。自分の個性を活かして学級に貢献する達成感は自己有用感を高める。また、一人ひとりが活躍できることで、学級全体で協働し、よりよい学級をつくることができる。

以上、互いの良さや個性を認め合う活動により、高い自尊感情にあふれ一人ひとりが輝き尊重し合える学級をつくる。私はいじめを絶対に許さない態度をもち、認め合う学級をつくるため、日々研鑽と修養に励む。

児童・生徒一人一人に他者への共感と思いやりの心を育む教育 2024 小論文

学校の役割は子どもを幸せにすることである。幸せとは「差別がなく、一人一人が助け合って他者と共生することである」しかし差別は世界的な問題であるのが現状である。人種、国籍、障害、性などにとらわれず、誰もが共感や思いやりをもって共生していく社会の実現が大切であると考えます。

私は高校保健体育の教員として「児童、生徒一人一人に他者への共感と思いやりの心を育む教育」について以下2つの方策に取り組む。

1つ目は、障害に関する差別を無くすための体験学習を行う。保健体育の授業で車椅子バスケットボールを実施する。実際にパラスポーツ選手を呼び、車椅子バスケットボールと通常のバスケットボールの違いやパラスポーツならではのルールについて学ばせる。また、実際に車椅子に乗って競技をし、試合などを通して選手と触れ合い、生徒に興味、理解を持たせる。次週の保健体育の授業で実際に体験して思ったことや考えたこと、障害についての意識の変化などについてワークシートに記入し、グループで共有する。これにより、体験を通して、他生徒の障害についての考えなども知ることができ、障害についての理解が深まると共に障害に対する意識が変わると考える。

2つ目は、学級活動を通して、共生社会の実現を目指す「バリアフリーマップ」の作成をする。この活動では実際に町の地図をもって課外活動を行い、電車やバスなどの公共交通機関、道路や建物などから危険な場所、安全な場所を見つける。危険性がある場所には赤、安全性がある場所には青などの色分けをし、他生徒にも分かりやすい自分だけのバリアフリーマップを作成させる。また、どうしたら誰もが使いやすいものになるのかを考えさせ、1人1つ以上「新しいバリアフリーアイテム」と称してアイデアを考えさせる。これらは次週の学級活動にて、クラスの班で意見共有し、大きな紙に班全員のバリアフリーマップを記入し全体で発表する。この活動では、生徒が年齢や障害に左右されない共生社会について理解を深めることができると共に新しいアイデアや意見を通して、他者を思いやる心の育成にも繋がると考える。

誰もが幸せを享受できる共生社会の実現には周囲に目を配る共感や思いやりは不可欠である。私は常に「助け合い」を重視した教育実践を行う。粘り強い実践を通して、生徒と共に向上心を持って成長していく覚悟である。

各学校では、誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育が求められています。このことについて、あなたの考えを述べた上で、その考えに立ち、教師としてどのように取り組んでいくか、志望する校種と教科等に即して、26行(910字)を超え、30行(1,050字)以内に述べない。

○誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育が求められる問題の背景としてどのようなことが考えられるか。そのことを踏まえあなたの考えを述べなさい。

【背景】

【あなたの考え】【序論】

〔取り組む教育活動の内容（柱・テーマ）を二つ挙げ概要を書きなさい。〕

1

2

1,050 字以内で上記の問題で書いてみましょう。

各学校では、すべての児童・生徒に確かな学力を育む教育が求められています。このことについて、あなたの考えを述べた上で、その考えに立ち、教師としてどのように取り組んでいくか、志望する校種と教科等に即して、26行(910字)を超え、30行(1,050字)以内で述べない。

○すべての児童・生徒に確かな学力を育む教育が求められる問題の背景としてどのようなことが考えられるか。そのことを踏まえあなたの考えを述べなさい。

【背景】

【あなたの考え】【序論】

〔取り組む教育活動の内容（柱・テーマ）を二つ挙げ概要を書きなさい。〕

1

2

1,050 字以内で上記の問題で書いてみましょう。